

しょうとぐらむ



商都通信ポケット手帳としてかかれた物

2015 年 1 月 11 日

商都通信株式会社

創業者 橋本 貴士

はじめに

商都通信株式会社の全社員の生活を向上させ、夢がかなう企業にするために会社の歴史と今と将来について書き記してみました



目次

はじめに.....	1
目次.....	2
会社の生い立ち.....	3
創業者の横顔.....	4
経営理念.....	5
配車マンの心得.....	6
実運送部門.....	8
さいごに	15



会社の生い立ち

1975 年 6 月 CBC、東海テレビ、ラジオ、名古屋テレビ等と契約しての、
広告代理店として企業活動を開始しました。資本金は 100 万円でした。

～こんなことがありました～

プラスチックの円盤(フリスビー)や、ローラーブレード(一本刃のローラースケート)の国内販売の広告活動を、東京、大阪、北陸 3 県を中心に行いましたが、普及に時間が掛かって利益につながりませんでした。

広告会社からどうして運送会社へ

広告だけでは、生活の維持が出来なくて、夜は広告代理店、昼は運送会社の運転手で生活を維持しました。が、程なく免許停止の身となり、事務所で配車をさせてもらい、それから 7 年運送業の何かを学び退職しました。

私たちの会社は、運送業の創設時、トラックが1台もない利用運送業でした。

運送取扱業通称「水屋」と呼ばれ、実運送業の人たちから忙しいときは、荷物をもらって車を必死で探して役に立ち、暇なときは帰り荷物として実運送業の人に荷物を運んでもらい、1台ずつの実績が信用として積み重ねられて、会長と二人の配車から、大阪、埼玉、岡崎、小牧へと拡大していくことが出来たのでした。



創業者の横顔

● 橋本貴士

創業者、橋本貴士は20歳代には建築塗装の仕事につき、大きな建設現場の番頭として、富士製鉄広畑工場、神戸製鋼明石工場の増築工事に関係し、鉄骨塗装で高さ50mの足場を走り回り？ペンキまみれで飯場生活をしていました。

30歳になると名古屋に流れて広告代理店、運転手、運送会社事務員、と流れまくりの生活をしました。

40才になって、覚えた仕事で広告代理店を陸運局の許可を取って運送会社にリストラクチャリング(事業内容の変革)して現在の商都通信となりました。

● 橋本春子

春子会長は、社長と20歳から行動を共にし、苦しいことばかりの生活に愚痴も言わずに内職、もらったばかりの免許証と地図を片手に陸運局までのお使いそして時には広告の集金へと……正に内助の功でありました。

40才からは自宅での運送業を自分なりに努力もして、理解をして現在は、適切な助言で会社の経営に寄与しています。



経営理念

社長の考えが経営理念に表れている

現在の経営理念は『おかげさま』

感謝の気持ちを常に持つことによって、社会の一員として生き残ろうとしています。

家族のおかげ、町内のおかげ、社員のおかげ、お得意先のみなさまのおかげ。というようにすべてがみんなのおかげで回っているという感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思い『おかげさま』を経営理念としました。

個人商店から 40 周年を迎えて商都通信株式会社としての「経営理念」を定めます

経 営 理 念

1. 「おかげさま」の心を大切に、一人一人が感謝の心を持ち

事業を展開いたします。

2. お客様満足により、全従業員の生活を向上させ

夢が叶う企業を目指します。

3. 社会の一員として生き残る為

コンプライアンス（法令順守）を遂行します。

配車マンの心得

利用運送の事務所の配車マンは、どんなことを基本に考えて毎日を戦っているのでしょうか

① 的確な指示

ナビなど無い頃、地方から来た乗務員さんがどちらの方角に向かっているのかと、指示をするときに的確な距離感とわかりやすい目標物を伝えて目的地へ無事にたどりつくようにとても気を使ったものでした。最近ではナビのおかげで住所を伝えるだけになっていることが多く、乗務員さんとの会話も少なくなっています。

☆会話の中から相手の状況、困っていることはないのか、体調の良し悪しなど、昔のように気が付くことができるのでしょうか？

☆不満に気づき、解消することができるのでしょうか？

② ねぎらいの言葉

昔の水屋さんは、他社の運転手さんを自分の手下のように扱って命令口調で指示をしていましたが、商都通信の配車マンには、それだけには気を付けて、疲れているであろう体調を気遣ってねぎらいの言葉をかけるように伝えていました。

☆今もその姿勢はつづいていますか？

③ 感謝の気持ち

運んでいただいているという感謝の気持ちがあれば、すべての言動に自然と備わってくるものだと思います。

☆感謝の気持ち 忘れていませんか？

④ 粘りそのものの営業開発

営業のチャンスは、一本の電話にも隠されていると思います。無気力な電話の取り方では、せっかくのチャンスも台無しになります。常に其の電話が仕事につながる電話という気持ちで、粘り強く対応してください



利用運送の基本

暇だから車を受けない。

忙しいから荷物を請けない。

これでは取扱業ははじまらない。

受けた車に次の日の15時までかかってやっと荷を付ける。

請けた荷物を次の日の16時まで掛かって車を探す。

これでやっと2台の配車の出来上がり。

これを二人でやれば4台の配車。

毎日毎日、この積み重ねでお客様の信頼を得るのです。

一朝一夕では、出来ません。

一人一人が商売人になって、愛想よく。常に明るく、いつも明るくです。

いらっしゃいませ、有難うございます。

常に明るく、お客様にかわいがられて、信頼されて。

そんな営業マンになって欲しいと思います。



実運送部門

● Q & A

➤ Gマークはなぜ必要？

15年ぐらい以前では、白ナンバートラックの運送屋さん？が、法律の規制を無視して、重量オーバーとか、低運賃とかで稼いだものでしたが、世論のコンプライアンス旋風に運輸局が押された格好で、白ナンバーの業者に無理矢理でも緑ナンバーを与えて現在につながっています。この続きでもあるのですが、同じ緑ナンバーでも安全重視の会社であるということを広く世間にアピールするために「Gマーク安全評価事業認定マーク」を、与えて、昔の白ナンバーから緑ナンバーにしたように緑ナンバーの中の質を高めて、今後運送会社として生き残ることができるようにしているのです。

➤ グリーン経営に参加をするのはなぜ？グリーン経営の参加は、自分自身の安全のためだと思ってください。

オイル交換をチェックするのも、エアーエレメントをチェックするのも、タイヤの空気圧をチェックするのもすべて、トラックが安全に走行する為です。ということは、乗務員さんの安全を守るためだと言えるのです。

燃料消費をチェックするのは、無駄な高回転での危険運転がないか、無駄なアイドリングがないかを調べて、常に危険性と経済性にチェックが働くようにしてほしいのです。



● Q & A

➤ どうして4時間に30分の休憩が必要なの？

4時間でも長すぎると思うことがありますが、疲れたときに細切れに休憩時間を5分刻みにとっても本当の休憩になっていないと思われるので、最低でも4時間に30分（又は15分+15分）の休憩を、8時間に合計1時間の休憩を取ろうというのが科学的にも、医学的にも追及されて調べた結果の決まりです。

➤ どうして、一日連続8時間の休息を取るのか？

これも医学的に、科学的に研究されての数字かと思いますが、24時間から、休息時間を最初に決めて、それから働ける時間を決めるべきだということだと思います。



➤ どうして、連続8時間が取れないときに5+5、4+6の休息時間が必要なのか？

特にトラックの中で休息を取るのが多い乗務員さんの場合、作業とか、待機時間的なこととかで8時間連続が難しいので、特例として分割での休息を認めています。降ろしに行くまでに5時間、帰り荷を積み前か積んでから5時間の休息を取ることによって、24時間中10時間の休息が確保され、労働時間が14時間になり、1日の労働時間がぎりぎりセーフになるということです。

● 注意点・点検ポイント

➤ ユニック作業の注意点

作業を始める前に、トラックの周りを全体的にみるようにして、障害になるものとか、後ろの品物から降ろす時は、前の品物にユニックのブームが当たらないのかを作業を始める前にシミュレーションするようにしてください。

又、天井ギリギリにブームを伸ばして荷卸しするときは、荷卸し時にブームが上に跳ね上がりますのでその分を考えて間隔を空けて作業するようにしましょう

➤ ユニック装置の点検

通常の操作時の音をよく覚えておいてください。異音があれば、場所とオイル漏れがないかと、金属的な音か、エアー(オイル)漏れかを判断できるようにしておいてください。

➤ 機械の積み付け方法の注意点

機械本体から飛び出しているアンテナとか、信号灯とかは、積先

で外してもらうか、緩めて下げてもらうか、駄目な時は毛布で周りを固めて、ガムテープでぐるぐる巻きにするようにしないと、着いた時には曲がっていることが多いのです。その部分で、シートを合わせるようにして、アンテナ部分のみブルーシートで養生するのも方法です。

大きな、長い機械などを積むと大きなシートをかけますが、機械が凸凹な時には、シートの上から長いシートゴムとかを利用して凸凹の部分が風でバタバタしないように抑え

込む必要があります。運転席にでも常に予備のシートゴムを用意しておきましょう。



➤ ラッシングベルトの注意点

ラッシングベルトと、レバーブロックと、トラックロープを使い分けて荷締めをしてください。

ラッシングベルトは、便利ですが万能ではありません。強く締めると変形するような品物には、トラックロープを使いましょう。ロープで締めるには、最後に万力という締め方を使ってトラックの外フックに縛り付けます。

もう少し締めておかないと心配な時には、ダブル万力という締め方でやはりボディの外フックに縛り付けます。

また、鉄関係でも刃先のあるような鉄骨などをラッシングベルトで締め付けると走っているうちに振動で切れてしまいますので、必ず毛布とか、角当てタコパットなどを利用して切れないようにしてください。

又、上部が重いような不安定な機械とか機材は、レバーブロック

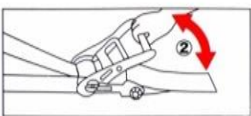
を利用してワイヤーで固定するのが一番かと思います。この時にも完全すぎるぐらいの養生、当てものをしてください。

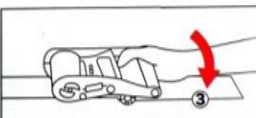
機械の固定に30分余計に掛かっても、3時間走ることを考えるとどれだけ安心、安全かがわかると思います。



使用方法

- 

調節側のベルト端をラチェットの下から巻き取り輪に通し、矢印①の方向に、たるまなくなるまで引いてください。
- 

作動レバーだけを握り矢印②の方向に、上下に繰り返し操作するとベルトが徐々に強く締まります。巻き取り輪には2回転位ベルトを巻き取ってください。
- 

作動レバーを矢印③の方向に完全に戻し、最後に、開放レバーを握ってロックかけたら、これで完了です。
- 

作動レバーと開放レバーを同時に握って、矢印④の方向に180度回すとベルトが開放されます。

※必ず付属の取扱説明書を熟読し、注意事項について習熟してから正しくお使いください。

➤ 冬季の雪道の走行注意点

毎年雪のシーズンになると1回はあるのですが、上り坂の途中でストップしてしまい、身動きが取れないことがあります。下り坂の場合は追突になるか側道に脱輪するしかなくなります。このような時には、恥ずかしいかもしれませんが、安全のためにも、前の車が登り切ってから、下り切ってから進入するようにしてください。



➤ エンジンの異音

最近のトラックは、モニター画面でエンジン異常を知らしてくれるので、異音が出るまでに修理工場で調べて修理になりますが、それでも普段のエンジン音を頭に入れておくことは、遠方とか、山の中とかでの故障を防ぐためにも大切なことかと思えます。

➤ ミッションの異音

エンジンと違って、ミッションは以前から踏みしろとか、つながり方とか、すべり具合とかによってクラッチ板の減り具合を察知する方法を取ってきました。それとは別にクラッチそのものを動かすためのマスターシリンダーの油圧不足とかによってクラッチ板が切れないことがあります。クラッチの故障の時には、本体と、マスターシリンダー両方の動きをチェックする必要があります。

➤ ブレーキの故障？ランプについて

ほとんどの車には、全輪の横滑りを察知してこれを防ぐためにABSというブレーキの補助装置がついています。

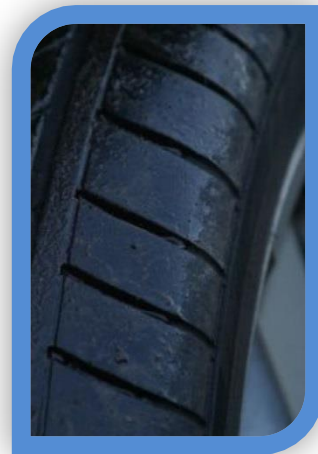
これとは別に、特にUD車では、モニター画面にEBSランプが点灯するときがあります。これはとても危険ですので速やかに、安全に停止をして、直ぐに停まれるスピードで安全な場所まで移動してください。

このEBSランプの異常はブレーキの制動倍力装置の故障を意味するもので、昔のハイドロブレーキブースターが無い状態なのでどれだけ力いっぱいブレーキを踏んでも5分の一の力しか伝わっていないので、止まらなくて当然ですね。

今の車についているブレーキの電子制御ではなくなるので、昔の足踏みブレーキのハイドロブースターなしだと思って対応してください。

➤ ラジエターの異常

ラジエターの異常は、温度計によって知ることが出来ます。普段の温度をよく知っておいて、少しでも温度が上がったままとか、下がったままとかの場合には修理点検が必要となりますので、普段から、ラジエターキャップの裏面のサーモスタット部分の清掃とかに気を付けての整備をお願いいたします。



➤ タイヤの点検

特に夏季期間は、前輪タイヤをそのま
まの状態です3カ月以上走行してしまうと片べりから、(段べり)波うちべりになりローテーションもできないようになり、1本丸ごと取り換える必要になり、不注意からの不経済が発生することになり、3カ月を限度としてのタイヤローテーションを必ず行うようにしてください。



➤ ボディの損傷防止の為に

ボディの損傷で修理が難しいのがアルミの横煽りです。特に煽りを開けるときに傷がつきますので、現場の作業員の方に開けてもらうことが無いように先に段取りをすることも大切かと思います。

又ユニック作業時にも荷物で傷をつけないように気を付けて煽りを切っておくように心がけてください。

その際に積み込んでいる機械が滑って落ちないように気を付ける必要があります。

➤ バッテリーの盗難が増えています

最近になりバッテリーの中の重金属を狙ってのバッテリー本体の盗難事件が起きています。まとめてとられるので、朝の始動時に大騒ぎになります。

トラックを止めるときにバッテリー側に出来ればあまり空間を作らないようにするとか、逆に外からよく見えるようにするとかして気を付けてください。



➤ ユニック車の盗難が続いています

ユニック車は機材の窃盗に使うためとか、以前から盗難事故が多発していますが、私たちに出来ることは、ハンドルロックとか、アウトリガーの張り出しにより犯行に時間が掛かるようにするとか、道路沿いに止めるときには、道路対

して縦に止めて、死角を作らないようにするとか、照明が良くあたるように工夫するとかするしかありませんが、常に盗られるかもという緊張感を持って工夫をしてほしいと思います。

さいごに

トラックのボディに書かれた社名看板は、日本全国どこにいても会社の看板を背負っているという気構えで、走行も、駐車も、現場の作業員さんとの会話でさえも気を付けて行動しないと、今の流行ですぐに、通報されたり、ネットに書かれたりしますので、常に会社を代表していることを忘れないようにお願いいたします。

● これからの運送会社の生き延びる方法

A地点からB地点まで

100km荷物を運んで 10000 円

800km荷物を運んで 80000 円

運賃とは、このような計算で支払われるので、

2 個積んで 130000 円になるように段取りして、運収を上げる方法が一つ。

A地点からB地点まで

100km荷物を運んで 10000 円、
積込先での梱包、卸先で開梱、設置
場所へ搬入して、20000 円
合計 30000 円。



簡単に言えば、同じ燃料で、運収が 3 倍になる、この燃料高で生き延びるのは、混載で運収を稼ぐか、機械の梱包、設置で運収を稼ぐかしないと、駄目だと考えています。

乗務員さんからすれば、一か所積みの一か所卸ですっきり片づけた方がいいのは当然ですが、まず運収を上げ、全従業員さんの生活を向上させるため、安定した給料の確保及び会社の存続のために燃料や車両の購入がスムーズに計画されるように、一丸となって頑張っていきましょう。